

豊かな経済を
未来へつなぐため、
先人の足跡を探る。

ビジネス学部
ビジネス学科
助教

藤井 英明

【学 歴】

2000年3月 明治大学経営学部経営学科 卒業
2004年3月 立教大学大学院経済学研究科経営学専攻
博士課程前期課程 修了
2013年3月 立教大学大学院経済学研究科経営学専攻
博士課程後期課程単位取得 満期退学

【職 歴】

2013年4月 学習院大学経済学部 非常勤講師
2016年4月 立教大学経済学部経済政策学科 助教
2016年4月 埼玉大学経済学部 非常勤講師
2016年9月 横浜市大規模小売店舗立地審議会 委員
2018年4月 大月市立大月短期大学経済科 非常勤講師
2019年4月 総務省政策統括官(統計制度担当)付
統計審査官(統計基準・産業連関表担当)付総務事務官 主査
2024年4月 愛知淑徳大学ビジネス学部 助教(現在に至る)



藤井先生の主要著書・論文

- 『鉄道と商業』(井田泰人編著) 晃洋書房 2019年
- 『高度経済成長期における中小小売商店従業員の休日制
―川越商店街の事例を中心に―』立教大学経済学研究会『立教経済学研究』
第72巻第1号 2018年
- 『鉄道と地域の社会経済史』(篠崎尚夫編著) 日本経済評論社 2013年
- 『1970～80年代における富山市駅前再開発と中心商店街
―商業近代化政策と「ミニスーパー」事業―』
立教大学経済学研究会『立教経済学研究』第66巻第3号 2013年



日本の経済史を専門とする藤井先生は、小売や流通の成り立ちに関する研究に力を注いでいます。その原点は海外で暮らした幼少期。経済力が弱い国で、貧困により人々の心や社会が荒むことを目の当たりにして、経済や商業の関心が高まったそうです。安全で豊かな日本の商業の秩序がどのようにつくられ、守られてきたのか。その歴史を探り、これからの社会への貢献を見据えて、研究の道を歩んでいます。

私は、経済史的な視点から小売商業の研究をしています。買物というのは最も身近な経済的かつ社会的な活動であると考えています。

子どもの頃、父が治安の悪い国に海外赴任となり、私はイギリスの学校に行きました。サッチャリズム、新自由主義…、80年代中頃のイギリスは10%以上の失業率に苦しみ、私が行った頃は何とか10%を下回っていたものの、経済の状況は依然として悪く、社会は暗澹としており、人々の心は荒んでいたように思います。中小店が次々と潰れ、買物や食事をしていても店員に目を合わせてもらえなかったり、舌打ちされたり、勘定をごまかされたり、差別的なことを言われたりと、随分と嫌な思いをしたものです。

学期が終わると両親が暮らす国に帰るのですが、我々外国人は危なくて気安く町中に買物に出ることもできません。ごくたまに商店に行っても、盗品が並んでいたり、当然の如く法外な値段

を吹っかけられたりと散々です。貧すれば鈍する、貧しさというのは怖いものだなとつくづく感じさせられました。経済の衰退や後進性は、社会に深刻なダメージを与えるのだと。

どうして経済は衰退するのか、経済的な強弱がこんなにもはつきりと表れてしまうのはなぜなのかという疑問と、社会的な貧困への恐怖が、自分の研究意欲の根底にあります。

現在、我が国では嫌な思いをせずに安全に買物をするのですが、これは一朝一夕にして出来上がったものではありません。事業者の不断の努力と、経済や社会の健全性が相まって、なんとか成り立っているものなのです。近年、違法・脱法的な商行為が横行していることに、非常に強い危機感を覚えます。私たち一人ひとりが社会に責任を持つことの大切さを、学生の皆さんに少しでもお伝えできればという思いで、研究と教育活動を続けています。